

令和 7 年度白井市市民団体活動支援補助金
採択団体中間ヒアリング資料

活動促進型

(1) ひだまり食堂

申請団体名	ひだまり食堂	事業名	子ども食堂
申請事業の概要	西白井コミュニティプラザにて月1回ランチタイムに子ども食堂を実施します。地域の子どもから高齢者を対象に、子ども食堂を通して孤立対策、子育て応援、多世代交流によるにぎわいづくりを目指します。		
審査コメント	<ul style="list-style-type: none">・若い人が中心となった地域に密着した活動であることを高く評価します。・一步一步着実に事業を実施し、より良い事業の運営方法を模索し次年度以降の活動に活かしてください。・食中毒対策や調理中の子どもの見守りなどリスクマネジメントをしっかりと行って事業を進めてください。		

● 補助事業の進捗状況について

事業計画書どおりに事業は進んでいますか。

(1) 進められている取組について (実績など)

2025年6月より、西白井コミュニティプラザにて月1回のペースで子ども食堂を開催しております。回を重ねるごとに地域の方々への認知も広がり、利用者の増加に加えて、運営を支えてくださるボランティアスタッフや、食材を寄付してくださる方も少しずつ増えてまいりました。

また、行政機関とも連携を図りながら、ボランティア募集や広報活動にも積極的に取り組みました。

さらに、2025年9月からは新たな試みとして、子どもたちへの「学習サポート」を開始しました。食事の提供に加え、学びや交流の場としての役割も担うことで、地域に根ざした継続的な活動を目指しています。

(2) 進められていない取組について (原因など)

8月頃まではいくつかの公共施設や保育園や学童にチラシの配布・掲示をお願いし、積極的に広報活動を行ってまいりました。

しかし、子ども食堂の開催における1回あたりの受け入れ人数に限られているため、広報活動を継続的に拡大すると、既存の利用者が参加しづらくなる可能性があることが分かりました。

そのため、現在は広報活動のペースを調整し、既存利用者と新規利用者の両方が子ども食堂を利用できる仕組みづくりに努めています。

(3) 下半期の活動計画について

上半期はリピーターの参加が多く、既存の利用者にとって安心して過ごせる居場所としての役割を果たすことができたと思います。

下半期は、その居場所としての機能を維持しつつ、新しい利用者にも気軽に参加してもらえるよう、運営のバランスづくりに取り組みます。

また、単に食事を提供するだけでなく、「学習サポート」や「ボードゲーム」を通じて、子どもたちや地域の方々が自然に交流できる流れをつくりたいと考えています。

このような取り組みを通じて、子ども食堂が“食事の場”にとどまらず、地域のさまざまな世代がつながる「地域の交差点」となるような場づくりを目指してまいります。

● **補助金等の活用状況について**

収支予算計画書に沿って補助金を活用できていますか。

(1) 活用できている取組について

補助金は主に食材費、消耗品・事務用品費、会場使用料に活用しています。夏には補助金を活用して季節イベント（かき氷イベント）を行うことができました。

(2) 活用できていない取組について（原因など）

当初は子ども食堂開催日とは別に定期ミーティングの機会を設ける予定で、その会議室使用料に補助金を充てようと計画していましたが、毎回子ども食堂が終わった後に参加スタッフ全員で振り返りの会を設けているため、定期ミーティングに使う会議室使用料はほとんど発生しませんでした。

(3) 下半期の補助金活用計画

上半期に必要な備品等は購入したので、下半期では主に食材費、消耗品費、会場使用料等に補助金を活用することになると思います。下半期にはハロウィンやクリスマスといったイベントが集中しているので、補助金を有効に活用し、子どもたちの体験拡大につながるような取り組みを行いたいと考えています。

● 審査コメントへの対応状況について

市民活動推進委員の審査コメントに対し、どのように対応をしていますか。

- 活動を継続する中で、地域の方々だけでなく、大学生などさまざまな世代の方々からボランティアスタッフとしての参加希望をいただくようになりました。
それぞれの得意分野や関心を活かすことで、スタッフの生きがいくくりにも繋げていきたいと思えます。
- 活動を継続する中で、さまざまな課題も見えてきました。
まず、予想以上にリピーターの参加が多く、既存利用者の居場所として定着している一方で、新しい利用者をどのように呼び込むかが今後の課題となっています。
また、子どもたちが安心して集い、長く関われるような「居場所づくり」のためには、食事の提供だけでなく、学習支援や遊び、交流など、さまざまな工夫や仕掛けが必要であることを実感しています。
これらの課題を踏まえ、より多くの子どもたちと地域の方々に関われる場を目指して、今後も運営方法の改善に取り組んでまいります。
- 活動の中で、施設備品のお皿を割ってしまう事案が一度ありましたが、事前に参加していた保険の適用により、自己負担なく対応することができました。
また、運営責任者が食品衛生責任者養成講習会を受講し、食中毒防止のための衛生管理や調理手順、保存方法などについて学びました。
講習で得た知識は全スタッフと共有し、調理時の衛生チェック体制の見直しや、子どもの見守り体制の強化など、より安全で安心な運営を目指して取り組んでおります。

● 団体活動の活性化と自立の課題について

団体活動を進めていくうえでの活性化と自立の課題（人、モノ、資金、場所、情報など）はありますか。課題に対してどんな工夫をしていますか。

【人】

新しく参加したスタッフの定着率が課題となっています。

そのため、新規スタッフへのサポート体制を強化し、初回参加時には必ず個別に1日の流れなどの確認や質疑の時間を設け、また、既存スタッフ1名をフォロー担当として配置する「フォロー制度」を導入しました。これにより、新規スタッフが活動の輪の中に入りやすく、なるべく不安を感じずに参加できるよう努めています。

【モノ】

近年の物価上昇により、特に食材費の高騰が予算を圧迫していることが課題となっています。

現在は食材を寄付していただくことで予算圧迫を軽減できていますが、今後はフードロス問題と絡めて、廃棄されてしまう食材などを有効活用していきたいと考えています。

【資金】

運営資金については、民間の助成金など外部の支援制度を積極的に活用し、安定した活動基盤の確保に努めています。

【場所】

西白井コミュニティプラザの調理室を継続的に利用できており、現時点では大きな課題はありません。

【情報】

リピーターが多く、新規利用者の増加が今後の課題です。

今後は、他のイベントや企画と子ども食堂を組み合わせることで、地域の子どもたちや保護者、様々な世代の方たちに知ってもらう機会を増やし、より多くの方に参加してもらえるよう工夫していきたいと考えています。

● **令和8年度の展望について**

継続的な活動のために、次年度はどのような活動をする予定ですか。

次年度は、継続的で安定した運営を実現するために、まずスタッフ同士の連携と親睦を深めることを重視していきます。

子ども食堂の運営はスタッフの支えや善意によって成り立っています。無理なく楽しく参加できる環境づくりに努め、スタッフ自身も毎月ひだまり食堂の開催を楽しみにしてくれるような体制・雰囲気づくりを目指します。

また、これまでの活動を通じて、食事の提供だけでは子どもたちにとって十分な「居場所づくり」にはならないことを実感しました。

そのため、学習サポートやボードゲーム、季節のイベントなど、子どもたちが安心して過ごし、楽しめる場所づくりに努めます。

さらに、子どもや保護者だけでなく、地域のさまざまな世代の方々が関わられるような交流の機会をつくり、地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりを目指していきます。

(2) 「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

申請団体名	「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会	事業名	グリーンスローモビリティ運行に向けての実証実験に係る PR、講演会活動
申請事業の概要	グリスロ試乗 PR および未来の白井市についての講演		
審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・年々深刻化する高齢者等の移動支援の課題に着目した意義深い事業と評価します。 ・グリーンスローモビリティが広く市民にイメージが伝わるよう、周知活動に努めてください。 ・別で実施する「実証実験」との相乗効果が最大限発揮できるよう、留意して取り組んでください。 		

● 補助事業の進捗状況について

事業計画書どおりに事業は進んでいますか。

(1) 進められている取組について（実績など）

七次台地区を中心に実証実験前のアンケートを取り、340件以上の回答を得られました。

10/4 大学の先生を招いて講演会を開きました。100人近い方に聞いていただきました。講演会に際しては事前にチラシ作成・配布および新聞への折り込みを実施しました。講演会後のアンケートも30人以上からいただき、好評でした。

(2) 進められていない取組について（原因など）

特にありません。

(3) 下半期の活動計画について

11月16～30日の実証実験後のアンケートを集計し、それを元に今後の展開を検討していきます。

● 補助金等の活用状況について

収支予算計画書に沿って補助金を活用できていますか。

(1) 活用できている取組について

講演会の講師謝礼金等に活用しました。

(2) 活用できていない取組について (原因など)

講演会の会場借用費、チラシ作成、アンケート作成費用は、補助金では足りず、当会会費からの出費と寄付（来場者、および自費）でまかっています。

(3) 下半期の補助金活用計画

活用できる補助金は残っておりません。

● **審査コメントへの対応状況について**

市民活動推進委員の審査コメントに対し、どのように対応をしていますか。

実証実験のプレイベントとして実施した講演会の内容が、新しいモビリティの活用であるので、その中でグリーンスローモビリティの紹介があり受講された方にはイメージが伝わりました。また、実証実験対象の七次台地区では実験の説明会を開いて活用イメージを伝えています。今後、実証実験で実車を目にすることでさらにイメージが伝わると思います。実験最終日に「まちボラひろば」があり、そこでさらに多くの人にグリスロがどんなものか見てもらえると思います。

● **団体活動の活性化と自立の課題について**

団体活動を進めていくうえでの活性化と自立の課題（人、モノ、資金、場所、情報など）はありますか。課題に対してどんな工夫をしていますか。

課題は人と資金です。その対応策として以下を考えています。
今年度の講演会等の実績や成果を掲げ、また、継続的地域課題をピックアップして賛同者を募ります。
資金については、下記「令和8年度の展望について」の②の事業に（ユニバーサルツーリズム＝福祉的事業）該当する財団等や、行政の補助金を調査及び相談しながら、これに充てます。

● **令和8年度の展望について**

継続的な活動のために、次年度はどのような活動をする予定ですか。

- ① 今年度のグリスロ実証実験の事前アンケート、試乗アンケート調査の結果をまとめ上げ、白井市に対しグリスロ本格導入を含めた公共交通問題改善について提言していきます。
- ② ニュータウン再活性化のための交流事業及び白井市観光協会設立を見込んで、コラボレーションし、ユニバーサルツーリズム（障がいのある人を含むツアー）の企画を考えます。その際、日頃より雑草駆除支援等を行っている近隣農家との協力関係で、地産地消のもてなし事業も行っていきたいと考えています。（例：梨狩り、バーベキュー等）
この取り組みで観光等の拠点を作りグリスロで結ぶというような形が出来ればよいと思います。

活動発展型

(3) しろい de あそ部

申請団体名	しろい de あそ部	事業名	みんなの居場所づくり事業
申請事業の概要	まちサポ・多目的ホールでアナログゲームなどを使った地域の人と交流できるイベントなどを開催し、みんなの居場所を作ります。		
審査コメント	<ul style="list-style-type: none">・若い世代を中心としたユニークな活動であり、他団体との連携を深めつつ活動をさらに発展されることを期待します。・センター等を利用した市内全域での活動や、世代間交流にも期待します。・民間補助制度の更なる活用も検討して、自主的な活動として確立できるよう努力してください。		

● 補助事業の進捗状況について

事業計画書どおりに事業は進んでいますか。

(1) 進められている取組について (実績など)

定期開催のイベントは粛々と進められています。

(2) 進められていない取組について (原因など)

定期開催イベントに合わせて軽食堂を実施するのは人員不足等であまり実施できていません。

(3) 下半期の活動計画について

定期開催のイベントを継続するほか、各センターのイベントに出展する予定です。

● 補助金等の活用状況について

収支予算計画書に沿って補助金を活用できていますか。

(1) 活用できている取組について

定期開催のイベントをメインで他事業等でも活用できる資機材の購入に活用しています (法被・テーブルマットなど)。
イベントを実施しているので施設使用料に活用しています。

(2) 活用できていない取組について (原因など)

軽食堂を実施できていないので食材費などには活用していません。

(3) 下半期の補助金活用計画

イベントは継続実施する。
経年劣化やパーツ等が不足しているゲームなどを確認するため棚卸を実施するほか、ニーズなどを踏まえて、再購入を行う。

● 審査コメントへの対応状況について

市民活動推進委員の審査コメントに対し、どのように対応をしていますか。

- ・他団体との連携としては、まんぷく食堂とコラボイベントを実施しているほか、今夏も文化センターを未来につなぐ会のナゾトキイベントの制作協力をしています。
- ・各センターから依頼を受けボードゲーム会を開催しています。
- ・民間事業者のキャンペーンなどを活用し、資機材の入手を行っています。

● 団体活動の活性化と自立の課題について

団体活動を進めていくうえでの活性化と自立の課題（人、モノ、資金、場所、情報など）はありますか。課題に対してどんな工夫をしていますか。

人：LINEグループで情報共有をしています。
モノ：基本は私物対応ですが、一部団体の物品を共有管理しています。
資金：補助金のほか、依頼案件は謝礼金等をいただくようにしています。
場所：有料でも利便性が高い場所を確保しています。
情報：情報発信はしろいまっちや公式LINEを活用しています。

● 令和8年度の展望について

継続的な活動のために、次年度はどのような活動をする予定ですか。

大きな新規事業を行うとハレーションが起きるので、基本は定期開催イベントの継続を念頭に活動します。少しずつ新たなことを実施します。